



TITLE:

學會 : 第45回近畿外科學會

AUTHOR(S):

---

CITATION:

學會 : 第45回近畿外科學會. 日本外科宝函 1938, 15(2): 239-251

ISSUE DATE:

1938-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/204921>

RIGHT:

## 第 45 回 近 畿 外 科 學 會

期日 昭和12年11月7日(日)

會場 大阪帝國大學醫學部附屬醫院本館四階會議室 (原稿ハ總テ自抄)

1. ヲヒタミン<sup>7</sup>Cト血液<sup>7</sup>リパーゼ<sup>7</sup>

阪大岩永外科 加藤恒夫

外科の結核ニ於イテ、其組織、膿、血清中<sup>7</sup>リパーゼ<sup>7</sup>ハ他ノモノニ比シ増強シ、血清<sup>7</sup>リパーゼ<sup>7</sup>ト組織<sup>7</sup>リパーゼ<sup>7</sup>ハ酵素ニ對シ同一性質ヲ有シ、且ツ血清<sup>7</sup>リパーゼ<sup>7</sup>ハ其豫後ニ密接ナル關係ヲ有スルヲ以ツテ、一般ニ臨牀上用ヒラレツツアル結核治療法即チ理學の藥物學的及ビ免疫學的治療法ノ血清<sup>7</sup>リパーゼ<sup>7</sup>ニ及ボス影響ニ關シ既ニ發表セシ所ニシテ、今回ハ<sup>7</sup>ヒタミン<sup>7</sup>Cガ血液<sup>7</sup>リパーゼ<sup>7</sup>ニ及ボス影響ニツキ報告ス。其結論トシテ 1) 實驗の壞血病海獺ハ、血液<sup>7</sup>リパーゼ<sup>7</sup>ノ減弱ヲ來ス。 2) 實驗の壞血病海獺ニ<sup>7</sup>アスコルビン<sup>7</sup>酸、<sup>7</sup>レモン<sup>7</sup>汁、<sup>7</sup>トマト<sup>7</sup>汁ヲ種々ノ割合ニ投與セシニ何レニ於イテモ血液<sup>7</sup>リパーゼ<sup>7</sup>ノ増強セルヲ認ム。 3) スノ如キ血液<sup>7</sup>リパーゼ<sup>7</sup>ノ消長ハ白血球、特ニ淋巴球ト一定ノ關係アルヲ認ム。

2. 出血性素因ト<sup>7</sup>ヒタミン<sup>7</sup>Cトノ關係

阪大岩永外科 小林義郎

<sup>7</sup>ヒタミン<sup>7</sup>ガ止血作用ヲ有シ特ニ出血性素因及ビソノ他血液凝固障碍ヲ惹起スル疾患ニ對シ著效ヲ奏スルコトハ衆人ノ認ムル所ナリ。然ルニソノ止血機轉ニ對シテハ未ダ定説ナシ。余ハ血液凝固障碍ニヨル出血性素因ニ於ケル<sup>7</sup>ヒタミン<sup>7</sup>C體內消長ヲ檢シ止血機轉究明ノ一端ニ資セントシ次ノ結果ヲ得タリ。 1) 總膽管結紮ニヨル膽血症各種肝臟毒投與ニヨリ血液凝固時間ハ延長ス。 2) スノ如キ動物ノ臟器<sup>7</sup>ヒタミン<sup>7</sup>C含有量ハ健常時ニ比シ減少セリ。 3) 骨髓含有量ハ血液凝固時間ト逆比の關係ヲナス。 4) <sup>7</sup>ヒタミン<sup>7</sup>C含有量ト血小板數ニハ一定ノ關係ヲ認メズ。

3. <sup>7</sup>トマト<sup>7</sup>汁ノ脂肪吸收ニ對スル影響ニツイテ

阪大岩永外科 新谷太郎

時間ノ都合上省略、抄録未着。

4. 異張溶液蜘蛛膜下腔内注入時ノ筋<sup>7</sup>クロナキシー<sup>7</sup>

阪大小澤外科 武内清

家兔蜘蛛膜下腔内ニ $+50\text{mm}$ 水柱壓ニテ $0.65\%$ 滅菌食鹽水ヲ持續的注入セル場合、10分毎1時間ニ互リ下腿筋<sup>7</sup>クロナキシー<sup>7</sup>ヲ反覆測定セルニ未ダ兩筋<sup>7</sup>クロナキシー<sup>7</sup>値ハ著變ヲ呈セズ、比率モ亦 $2:1$ ヲ保持シタリ。然ルニ高張 $10\%$ 滅菌食鹽水ヲ以ツテセル場合前半30分間ハ未ダ筋<sup>7</sup>クロナキシー<sup>7</sup>ニ動搖ヲ齎ラサザルニ後半30分ニ到リ俄然伸筋<sup>7</sup>クロナキシー<sup>7</sup>ハ増大シ、兩筋比率ハ爲ニ $3:1$ 以上ニ擴大セリ。次ニ非電解質ノ高張溶液トシテ $20\%$ 葡萄糖液ヲ以ツテセル場合、筋<sup>7</sup>クロナキシー<sup>7</sup>ノ態度ハ増大ノ一途ヲ辿リ伸筋對屈筋<sup>7</sup>クロナキシー<sup>7</sup>比率モ亦擴大スルヲ認メタリ。更ニ低張溶液トシテ蒸溜水ヲ $+50\text{mm}$ 水柱壓下ニテ持續的注入セル場合其後半30分ニ及ビ伸筋<sup>7</sup>クロナキシー<sup>7</sup>ハ斷然増大値ヲ示メシ、其值 $0.7\delta$ (シグマー)ニ及ビ、比率 $6:1$ 以上ニ擴大セリ。

茲ニ於テ $+50\text{mm}$ 水柱壓下 $0.65\%$ 滅菌食鹽水ノ持續的蜘蛛膜下腔内注入時筋<sup>7</sup>クロナキシー<sup>7</sup>ハ未ダ變化ヲ示メサザルモ異張溶液ヲ以ツテセル場合斷然<sup>7</sup>クロナキシー<sup>7</sup>値ハ動搖ヲ來セリ。是ハ異張溶液ナルガ爲ニ同一腦脊髄液壓下ニ於テモ滲壓ノ變化ニヨリ、將又腦膜ヲ刺戟スル事ニヨリ、換言スレバ Blut-Liquorschanke, Blut-Hirnschanke ノ變動ニヨリ從屬筋<sup>7</sup>クロナキシー<sup>7</sup>ニモ變化ヲ齎サルモノト信ズ。

5. 診斷困難ナリシ<sup>7</sup>レチクロ・エンドテリオーゼ<sup>7</sup>ノ1例

縣立神戸病院 濱田光志

吾々ハ全身淋巴腺腫張ヲ主訴トシ組織學的ニ本症ノ診斷ヲ下サレタル症例ヲモ經驗セルガコ、ニハ淋巴腺

腫脹ヲ缺キ臨床上診斷甚ダ困難ナリシ1本症例ニ就キ述ブベシ。40歳男子、2ヶ月前南洋航海中腰痛ト胃腸障礙アリ、40日後頑固ナル腰痛ヲ主訴トシ來院。種々検査セルモ腰痛ノ原因ヲ發見シ得ズ、其ノ他發熱、便秘、貧血、全身衰弱等症狀漸次増悪、臨牀診斷ヲ下シ得ズ對症の治療ヲ施行中入院後20日死亡セリ。剖檢ニヨリ脾腫、管狀骨赤色骨髓變化、腰椎骨體ノ髓様化見ラレ、顯微鏡ニ造血臟器<sub>L</sub>レチクレム<sup>7</sup>細胞及ビ内被細胞ノ異常ノ増殖證明セラレタリ。

## 6. Eptuberculosis ニ就テ

阪大小澤外科 武 田 義 章

抄録未到着。

## 7. テーチエ氏病ニ就テ

京府大外科 佐 谷 秀 雄、藤 井 俊 治

本症ハ臨床上肋軟骨一部ノ隆起ト疼痛ヲ表ハシ、病理組織學的ニ肋軟骨ノ退行變性ヲ認メルモノデアツテ、一種ノ非炎症性肋軟骨疾患又ハ肋軟骨萎縮症ト云フ病名ノ下ニ現在迄29例ノ報告ガアル。

我々ハ屢々本症ニ遭遇シ自家經驗例9例ニ就キ敘ベタガ其ノ要點ハ次ノ如クデアル。1) 9例中男子ハ1例ノミデ他ハ全部未婚ノ女子デアツタ。2) 年齢ハ18歳、20歳ノ各2例ト16歳、22歳、24歳、26歳、28歳ノ各1例デアル。3) 本症ノ經過ハ最短3日、最長1年ニ互ル。4) 罹患肋軟骨ハ第Ⅰ乃至第Ⅳデアツテ第Ⅴ以下ノ肋軟骨ニ起ツタモノハ1例モ認めナイ。該肋軟骨部ノ疼痛ハ6例ハ輕度ノ鈍痛デアツタガ其他ノ3例ハ時ニ激痛ヲ伴ツタ。5) 局所々見、手術時所見ハ從來ノ報告例ト大差ヲ見ナイ。6) <sub>L</sub>線<sup>7</sup>の異常ヲ見タモノハ2例ノミデアツテ肋軟骨石灰沈着像ト當該肋軟骨萎縮トデアルガ他ノ例デハ何レモ變化ヲ認めナイ。7) 切除肋軟骨ヲ鏡見シ軟骨細胞ノ融解消失、間質ノ纖維性變化、空洞形成、類骨組織增生ヲ認メタガ斯ル變化ハ必ズシモ生理的範圍ヲ越ユルモノデハナイ。8) 9例中5例ハ肋軟骨切除術ヲ行ヒ全治シタガ他ノ4例ハ安靜、溫濕布ニヨリ20日後疼痛ハ全ク消退シタ。以上ノ如ク本症ハ肋骨<sub>L</sub>カリエス<sup>7</sup>類似ノ臨床的症狀ヲ表ハスガ必ズシモ肋軟骨切除術ヲ必要トシナイカラ肋軟骨附近ノ肋骨<sub>L</sub>カリエス<sup>7</sup>ノ診斷ニ際シテハ本症ノ存在ニ留意シ之ニ對シ不必要ナ手術の侵襲ヲ加ヘル事ノナイ様注意スベキデアル。

## 8. <sub>L</sub>ケーソン<sup>7</sup>病ニヨル貧血性變縮ノ1例ニ就テ

京大整形外科 甲 賀 焄 六

日本外科寶函第15卷、第1號、95頁掲載済。

## 9. 外傷性失語症ニ就テ

縣立神戸病院 増 戸 武 夫、武 藤 完 雄

50歳男子、麥藁帽ヲ被リ作業中落下鐵板ニテ左顳頂下部ニ衝撃ヲ受ケ意識喪失ス。同部挫傷アリ、麥藁斷片、毛髮混入シ、<sub>L</sub>線<sup>7</sup>寫眞上陥没骨折ヲ認メ細碎骨片ノ腦挫傷中ニ刺入セル疑アリ。意識恢復ト共ニ失語症狀著明トナレリ。自發語、模倣語共ニ不能ナルモ他人ノ言語ヲ理解ス。書字可能、純性(皮質下性)運動性失語症ト診定サル。嚙口唇運動、咀嚼吸引運動ノ障礙、右手指ノ<sub>L</sub>シビレ<sup>7</sup>感及ビ握力減退等ヲ合併ス。手術ノ適應ヲ認メ穿顳術ヲ行フニ腦實質ニ挫傷アリ、細碎骨片、麥藁斷片、毛髮等混入ス。挫傷部ハ<sub>L</sub>クランオメトリー<sup>7</sup>ヲモ參考シテ前後中心迴轉下部及ビ溝蓋部ニ相當スルヲ知ル。術後發語並ニ前記口腔運動筋機能恢復ヲ見タリ。

追 加

阪大小澤外科 神 納 光 治 郎

左利キノ男、右顳頂部外傷ニヨリ運動性失語症ヲ起ス。<sub>L</sub>クロナキシー<sup>7</sup>法測定ニヨレバ、ブローカ氏中樞ニ最モ近キ中樞ヲ有スル筋郡即チ顔面筋ニ最モ著明ニシテ、失語症ノ輕快シテ行クニツレテ<sub>L</sub>クロナキシー<sup>7</sup>モ減退セリ。

## 10. 岩永外科教室12年間ニ於ケル甲狀腺腫ノ統計的觀察

阪大岩永外科 中 島 佐 一、扇 谷 市 太 部、友 野 慶 尙

抄録未着。

## 11. 右上膊皮下ニ見タル上皮腫ノ1例

阪大岩永外科 杉 岡 善 一

抄録未着。

## 12. Septisches Fieber ニ對スル處置

京大外科 森 下 哲 也

都合ニヨリ延期。

## 13. 「アゾ」色素劑ト外科の疾患

京府大外科 伊 達 登 紀 雄, 豊 島 要 三, 小 鹿 順 一

Domagk 氏が1932年「ズルフオンアミドアゾ」化合物ニ就テ系統的實驗ヲ行ヒ、「マウス」ノ連鎖狀球菌感染ニ對シ卓效アルヲ發見シテ以來多數ノ「アゾ」色素製劑ガ生レタ。即チソノ主要ナルハ「ブロンムジル」錠、可溶性「プロントジル」、白色「プロントジル」、「タルタリン」、「アクチゾール」、「テラポール」、「ピリパソ」等デアルガ我々モ之等ヲ丹毒、敗血症ノミナラズ、總ベテノ外科の急性化膿性疾患ニ使用シテ見タガ連鎖狀球菌、葡萄狀球菌ニヨル疾患ニハ、急性骨髓炎及ビ急性骨膜炎ニ於ケル例外ヲ除イタ大多數例ニ於テ有效ナルヲ認メ、大腸菌ニヨル疾患ニモ相當有效ナル事ヲ認メタリ。

尙「アゾ」色素製劑ノ毒性、體內及ビ試験管内殺菌作用、排出狀態、化學構造等ニ就テ述ブル所アラントス。

## 14. 手術後疾患ニ就テ (其4)

東京醫專 藤 田 小 五 郎

演者ハ手術ガ循環器系ニ及ボス影響ニ就テ先ヅ其原因ハ既ニ總説ニ於テ總説セシ諸種ノ要約ニヨルコトヲ是認シ手術ニ因ツテ生ズル未知毒素ニヨリテ生體ノ液體病理學的變化ヲ惹起シ傍ラ潜在性或ハ既存循環器系ノ失調及體質ニヨリテ其發病ヲ左右スルモノナルコトヲ先ヅ「シヨツク」虚脱人事不省等ヨリ血栓栓塞等ニ就キ臨牀の肝要ナリト思考セラルル事項ヲ文獻のニ考察シ手術前諸検査法手術術式及生化學の研究ノ進歩ニヨリテハ其障礙ヲ僅少ナラシムルヲ得ベシト。

## 15. 胸腔囊腫

阪大小澤外科 村 田 由 一

最近、余ハ同一ノ原因ニ依ツテ生ジタルト想像セラルル胸腔内囊腫3例ヲ臨牀のニ經驗セリ。共ニ臨牀のニハ肺膿瘍ト診斷サレテ手術後ニ始メテ肋膜下ヨリ發生セル囊腫ニシテ、ソノ内容物ハ血液様混合物ニシテソノ表皮層ニ相當セルモノハコレマデ所謂、内皮細胞腫ト呼バレテキタル膿瘍ニ相當セルコトヲ知り臨牀上、出血性肋膜炎及ビ結核性ノ種々ノ胸腔内疾患ノ出血性ニ傾キタルモノトノ類症鑑別ヲ必要トシ、更ニ内皮細胞腫ガ容易ニ外科學的ニ操作出來得ルコトヲ述ブ。

## 16. 呼吸麻痺ノ實驗的研究

京府大外科 今 津 九右衛門, 後 藤 量 平

脊髄麻痺ノ際屢々起ル呼吸障害ノ原因ヲ究明スル目的ニテ基礎的實驗ヲ行フ。

家兎ヲ用ヒ「ウレタン」麻痺ノ下ニ氣管胸廓及腹壁ノ三呼吸ヲ同時ニ又一方横隔膜運動ヲモ「キモグラフィオン」ニ描畫スル裝置ヲナシ。1) 脊髄ヲ下方ヨリ各節毎ニ上方ニ向ツテ切斷。2) 大脳、小脳除去、延髓切斷。3) 脊髄神經根切斷ノ三種ノ實驗ヲナシタルニ脊髄切斷ニ於テハ腰髓ハ影響無ク、胸髓Ⅴ位ヨリ努力呼吸ヲナシ上行スルニ比例シテ次第ニ呼吸障害著明トナリ、殊ニ頸髓ニテハ障害甚シ。頸髓Ⅲ以上ニ於テハ常ニ呼吸停止ス。大脳除去ハ大ナル影響ナク、小脳除去ハ呼吸亂調トナル。延髓ニ於テハ菱形窩ノ三叉神經發出部直前ニ於テ切斷スル時ハ呼吸ハ直ニ停止ス。又脊髄神經根切斷ニ於テモ上行スル程呼吸障害著明ニシテ、就中頸神經根Ⅲ切斷ニ於テ屢々呼吸停止ヲ見ル。但シ一側切斷ニ於テハ兩側ニ比シ影響少シ。

以上ノ實驗成績ヨリ考フルニ脊髄麻痺時ノ呼吸障害ハ呼吸中樞タル延髓ヨリ寧ロソレ以下ノ頸髓殊ニソノⅢ、Ⅳ、Ⅴ、ニ大ナル關係ヲ有スルモノナルコト明ラカーシテ從テ腰髓麻痺時呼吸麻痺ノ研究ハ當然頸髓ニ向ツテ行フヲ至當ナリトス。

## 17. 肋膜炎着性呼吸障碍

阪大小澤外科 小 澤 凱 夫, 中 尾 行 保

肋膜ニ廣泛ナル癒着ノ存スル場合ニハ何等カノ呼吸障碍ヲ惹起スベキ事ハ略々想像セラル。然シ乍ラ其ノ癒着ノ存スル場合最モ強キ呼吸障碍ヲ引起スモノハ肺底形成ノ著明ナモノニ限ル様デアル。唯單ニ廣泛ナル纖維性癒着デハ此ノ肋膜炎性呼吸障碍ハ起リ惡イ。呼吸障碍ノ程度ヲ實際的ニ明瞭ナル動脈血酸素飽和度ヨリ窺ヒ見ルニ多數ノ手術患者及動物實驗ニ於テ術前ヨリ術後ニ於テ酸素飽和度ノ良好トナルヲ觀察セリ。勿論

動物ニ於テ著明ナル肝肺形成サス事ハ困難ナリ。唯著明ナル廣汎性肝肺ヲ形成セル場合ニ之ノ肝肺形成ニヨリテ該側ノ呼吸運動ガ障礙サレテ居ル事ハ臨床的諸検査或ハ「ブノイモグラム」ヲ用ヒレバ明瞭ニ感受セラル即胸廓強直ガ其ノ原因ヲ爲ササルベカラズ。此ノ事實ニ基キ總テ表示セシ如ク動物ノ右側胸廓ヲ種々ナル程度ニ不可動性トナシ呼吸狀態及動脈血酸素飽和度ヲ測定セリ、即肋間神經切斷、橫隔膜神經切斷、肋間神經及橫隔膜神經切斷等ノ家兎ニ於テハ皆等シク酸素飽和度ノ下降スルヲ認メタリ。然ルニ之等胸廓ノ不可動性トナセル動物ニ更ニ教室武田式法ニヨリ肋膜外ヨリ該側肺動脈ヲ結紮スル時ハ酸素飽和度ハ良好トナリ逆ニ健側肺動脈ヲ結紮スル際ニハ不良トナルヲ觀察セリ。斯ク動物實驗ヲ觀ルニ一側胸廓壁ハ不可動性デアカラ肺臟ヘノ空氣ノ出入ガ制限乃至中絶シテイルモノト考ヘネバナラヌ。即チ高度ナル胸廓壁ノ不可動性ノ場合ニハ該側ヲ流レル血液ハ空氣中ノ酸素ニ接觸スル事ガ少キカ或ハ其ノ機會ガ無イ譯ニシテ、生體ハ唯反應的ニ呼吸運動ガ増強シテ居ル健側ノ肺臟ニテ酸素ヲ攝取ガ可能デアアルノミデアアル。コ、デ吾々ノ所謂肺血管及氣管枝ノ平行律ハ顯微鏡的觀察デハ差シタル障礙ヲ認メナイガ生理學的ニハ此ノ平行律ガ大ナル障礙ヲ受ケテイル事ニナル。

次ニ表示セシ各臨床例ヲ觀ルニ肝肺形成高度ニシテ著明ナル呼吸障礙ヲ有スル場合ニハ該側肺臟ノ全摘出ヲ行ヘバ酸素飽和度ヨリ觀ルモ著シク良好トナル尙又一例ノ肺臟ガ健在セバ充分ナリ（動物ニ於テハ全肺臟ノ約1/4ヲ以テスラ充分デアアル）。若シ肺臟ノ摘出ガ不能ナル際ニハ肺門部ニ於テ肺動脈主幹ヲ結紮スルガ可ナリ、癒着其他ノ理由ヨリ之レモ不能ノ場合ニハ患側肺臟ノ全容積ヲ縮小セシメ以テ肺血管ヲモ壓迫縮小シ肺血管氣管枝平行律ニ從ハシムル目的ノ爲ニ肋膜外胸廓成形術ヲ行フベキナリ。

以上表示説明セシ如ク肺血管及氣管枝平行律カラ肋膜癒着性呼吸困難ヲ觀察セバ其ノ間ノ因果關係ガ明瞭ニ判リ且之ニヨリテ吾々ガ平素想像セル肋膜癒着ヲ有スル患者ニ對スル手術方針モ決定セラレナクテハナラナイ。

#### 18. 骨折ト誤ラレタル坐骨「カリエス」1例

大阪日赤外科 横田 誠

「患者ハ27歳ノ女、藝人ニシテ外傷前マデハ何等自覺的症狀ナク相當無理ト思ハレル仕事ニ堪エラレタルモノニシテ電車衝突ニ依リ車中デ右臀部ヲ強く打チ疼痛甚ダシク右足ノ運動全ク不能トナリ某醫師ヨリ右大腿骨折ノ診斷ノ下ニ我が病院ヲ訪レタリ。

當時ノ所見トシテ右臀部ハ強く腫脹シ皮下溢骨ヲ認メ壓痛強ク、レ線寫眞ニテ右坐骨ノ骨破壊像ヲ認メタルモ當時ハ動機ヨリ考ヘ坐骨骨折トシ、腫脹セル部ノ穿刺ヲナシ血液證明セズ、乾酪様物質ヲ混ジタル稍々黃色ノ帶ビタル膿ヲ證明シ、膿ヨリハ細菌證明サレズ始メテ以前ヨリ潜在性ニアツタ坐骨「カリエス」ガ外傷ニヨリ症狀強化セルモノト知り、切開、搔爬、膿瘍膜切除全縫合ニテ術後15日ニテ治癒退院セルモノナリ。

#### 19. 結核性脊椎炎ノ成因ニ關スル知見補遺

阪大岩永外科 荒瀬 進、友野 慶 尙

時間ノ都合ニヨリ省略、抄録未着。

#### 20. 頭蓋冠骨髓炎1例

尼崎共立病院 池田 浩 藏

頭蓋冠骨髓炎ハ古今東西ノ統計ヲ按ズルニ蓋シ稀有ニ屬ス。茲ニ生後9ヶ月ノ女乳兒ニ於ケル可ナリ緩慢ニ發病セシ顱頂骨髓炎ニシテ腐骨摘出ヲ行ハズ切開排膿ノミニヨリ全治セシ1例ヲ報告セントス。

患者、歌○孝○ 生後9ヶ月生熟女兒、母乳榮養、母ハ脚氣ノ既往症ヲ有スルモ數年前ノコトニシテ本患ニ關係ナクワ氏反應亦陰性ナリ。本年8月中旬右頭部ニ拇指頭大ノ腫脹ヲ來セシモ疼痛無キガ如キ爲ニ放置セリ、然ルニ10月初ニ至リ腫脹ハ鵝卵大ニ迄増大シ發赤及壓痛ヲ伴ヒシヲ以テ切開排膿ヲ受ケ其後約1週ニシテ切開創開大ニヨリ錢貨大ノ腐骨ヲ認ム腐骨ハ可動的ニシテ其下ニ硬腦膜ト腦搏動ヲ視フベシ腐骨摘出ヲ試ミントセシモ出血甚シキヲ以テ之ヲ敢行セズ創傷療法丈ケニ止メ約1ヶ月後ニ全治ス膿ヲ染色スルニ白血球ノミニシテ球菌、桿菌共ニ之ヲ認メズレ線像ニ於テハ右顱頂骨中央ニ於テ透明ナル部分ニヨリ境界セラレタル稍々濃厚ナル薄板狀ノ剝離セル骨像ヲ見之ヲ中心トシテ骨蠟食像及斑點狀陰影ヲ認ムルノミニシテ其周

関ニハ別ニ骨萎縮ヲ見ザリキ。

## 追 加

藤田小五郎

演者ノ臨床例ト略同一部位ニ、20餘歳ノ看護婦ニ發生シタ多發性頭蓋骨骨髓炎ヲ經驗シタ。詳シクハ大阪醫事新誌ニ述ベテ置イタガ、私ノ例ハ數個ノ腐骨ヲ摘出シ約3ヶ月ニ至ツテ治癒シタ。

## 21. 多發性囊腫様骨結核ノ1例

阪大岩永外科 三 島 電 三

骨結核中經過緩慢ニシテ屢々自然治癒ニ赴キ骨内ニ空洞形成ヲ齎ス囊腫様骨結核ニ於テハ孤立性並ビ多發性ノ2種ニ分タル。前者ニ就キテハ本邦ニ於テモ戴氏ノ報告ヲ始メトシ10數例ノ記載アリ。而ルニ多發性囊腫様骨結核ニ就キテハ1920年 Jüngling ノ4例ヲ以テ嚆矢トナシ其後數10例ノ報告アルモ、其病竈タルヤ指趾骨ヲ侵スヲ常トシ稀ニ手足根骨ニ來ルヲ見、長管狀骨ニ囊腫様形成ヲ來セルモノ甚稀ナリ。即チ Fraenkel, Kienböck, Alstynne and Gowen 等ノ發表セル數例ニ過ギズ。

余ハ最近3歳ノ女兒ニシテ、左右上膊上膊骨並ビ尺骨ニ對稱性ニ更ニ左脛骨及ビ右第1趾骨ニ囊腫様形成ヲ齎セル1例ヲ經驗シ、組織學的檢査ニ依リ結核性ナルヲ確メタリ。即チ本例ハ Alstynne 等ノ報告ト一致シ Jüngling ノ多發性囊腫様骨結核ニ屬スベキモノト思惟サレ、本邦ニ於テハ類ヲ見ザルヲ以テ茲ニ報告ス。

## 22. 汎發性纖維性骨炎ノ1例

阪大岩永外科 井 福 早 苗

余ハ最近汎發性纖維性骨炎ノ1例ヲ經驗致シ、其ノ臨床的、レ線的、病理組織學的檢査ヲ行ヒ搔爬術ヲ施行後肝油「ワゼリン」挿入シタルニ局所ニ見ルレ線的ニ可ナリノ良結果ヲ得タリト思惟ス。

症例 秋田某、16歳、女。右腕骨々幹部ニ2ヶ、左脛骨々幹部ニ2ヶ、左腓骨下部骨端部ニ1ヶノ囊腫、更ニ頭部ニ骨内面ノ肥厚或ハ菲薄ナル部ヲ認ム。組織學的ニハ骨梁ハ不規則ニ而モ粗ニ網狀ヲナシ、之ト密接ナル關係ヲ持シテ結締織ノ増殖ヲミル。所々ハ骨梁ニ平行セル部ヲミ、多數ノ血管ト共ニ存在ス。淋巴球ヲ見ズ。血液並ニ尿中「カルシウム」量ニハ認ム可キ變化ナシ。上皮小體腫瘍ノ有無ハ手術的檢査ヲ施行セザリキ（時間ノ都合上省略）。

## 23. 脊椎骨々折治癒補遺

大阪外科伊藤病院 長 井 忠、大 里 男 二

脊椎骨々折ノ治療法ニ就テハ、第38回ノ本學會ニ於テ住田病院ニ於ケル治癒9例ト共ニ述ブル所アリ。ソノ詳細ハ昭和10年9月ノ大阪醫事新誌々上ニ記載シタ。最近ノ内外文獻ニヨレバ、ベーレルノ治療法ガ特ニ論議ノ中心トナツテキルガ、此ノ方法ニ對スル我々ノ疑義ハ既ニ述ベタ所デアル。吾々ハ本病ノ治療法トシテノ住田法ハ最モ理想的ナルコトヲ確信シ、最近數例ノ經驗ヲ重ねテ、更ニソノ確信ヲ深クシタ。簡單ニ住田法ニ就テ繰リ返ヘセバ、外傷直後ノ斜面床ニ持續展伸、續イテ局所ノ腫脹ノ消退ヲ待チテ「ギプス」床作製、之ニ臥セシメ、數日毎ニ局所病變脊柱ノ矯正ヲ行ヒテ之ガ生理的彎曲ヲ恢復セシム。然ル後「コルセット」裝用固定ヲ圖ルモノデアル。而テソノ主旨ハ後胎症トシテノ龜背ヲ見ザルコト及ビ麻痺ノ存スルモノニモ應用出來ル點デアル。吾々ノ症例ハ比較的輕症ノモノデアツタ。

第1例 菊地某、男、37歳、自動車ト衝突ス。第Ⅳ腰椎壓迫骨折、腰椎ノ前彎消失、腰椎下半ノ血腫形成、叩痛、全強直、膝蓋腱反射ノ高度ノ亢進、足現象兩側共ニ陽性、兩側下肢ノ異常感覺、膀胱及直腸障礙等ブリ。第14病日、「ギプス」床臥床、第60病日、「ギプスコルセット」裝用退院、膀胱障礙2日間、浣腸30日間、下肢感覺異常21日間。

第2例 杉原某、男、37歳、高所ヨリ墮落ス。第Ⅱ腰椎壓迫骨折、腰椎上部ニ著明ノ角狀龜背、叩痛、全強直、膝蓋腱反射ノ痙攣性亢進、下肢ノ感覺異常等アリ。第9病日、「ギプス」床臥床、第21病日起立、第45病日目的ヲ達シテ退院、膀胱障礙3日間。

第3例 藤村某、男、48歳、高所ヨリ墜落ス。第Ⅹ胸椎壓迫骨折、負傷後約8ヶ月後初診當時著明ノ腰痛ヲ訴ヘテ來院ス。胸椎第Ⅹニ相當シ局所性龜背及左彎叩痛ナシ、之ヲ中心トスル脊柱ノ全強直、膝蓋腱反射ノ著明ノ亢進。直チニ「ギプス」床臥床、第45病日ノ生理的彎曲ヲ恢復シ、自覺症ナク退院、直チニ安易作業ニ從事ス。

第4例 山崎某男, 24歳, 自動車ニ衝突ス。第Ⅸ胸椎壓迫骨折, 胸椎中下部ニ圓形龜背, 血腫ノ形成, 叩痛, 全強直, 膝蓋腱反射, 輕度ノ亢進, 著明ノ自發痛。第4病日自然尿, 第7病日自然尿, 第8病日「ギブス」床臥床, 第15病日起立, 第40病日略々ソノ生理的彎曲ヲ恢復シテ退院。

第5例 乾某男, 30歳, 自動車ニ衝突ス。第Ⅱ腰椎壓迫骨折, 腰椎中部ニ角狀龜背, 叩痛, 全強直, 膝蓋腱反射ノ輕度ノ亢進, 足現象右ニ陽性, 膀胱直腸障礙ナシ。兩下肢ノ麻痺感。第4病日下肢ノ麻痺感消退, 第7病日「ギブス」床臥床, 第34病日, 「ギブス」コルセットヲ裝用退院。

第6例 田中某男, 46歳, 高所ヨリ墜落ス。第Ⅵ—Ⅸ胸椎壓迫骨折, 胸椎下部ノ弓狀龜背, 胸椎第Ⅸノ局所性角狀龜背, 局所ノ脊柱全強直, 膝蓋腱反射ノ輕度ノ亢進, 足現象兩側陽性, 膀胱直腸障礙ナシ。第7病日, 「ギブス」床臥床, 第21日初日起立, 第28病日, 略々ソノ生理的彎曲ヲ恢復ス。

第5, 第6ノ兩例特ニ矯正期間ノ短縮ニ注意ス。

以上記載セル症例ニヨリテ明ナル如ク, 吾々ハ之ガ治療日數ヲ可及的短縮スルノ目的ヲ以テ, 患者ヲ動かスコトノ出來ル最短期ニ「ギブス」床ヲ作製シ, 引キ續キ強力ニ之ガ矯正ヲ續行シ, 之ニヨツテ第4例ハ40日, 第5例ハ34日, 第6例ハ實ニ28日ヲ以テ所期ノ目的ヲ達成スルコトガ出來タ。

吾々ハ本病治療ノ佳法ノ優秀理想的ナルコトヲ更ニ確信ヲ以テ高調セムトス。

#### 追加 1

石井 親一

最近當教室ニ於ケル脊椎骨折4例ニ對スル「ベール」氏法ニヨル好治療成績例ヲ追加シ當教室ノ採用セル「ベール」氏法變法ノ優越性ヲ述ベ該方法ヲ推奨セリ。

#### 追加 2

青柳 安誠

最近第Ⅰ腰椎壓迫骨折ニ「Böhler」氏法ヲ行ヒテ治癒セシメタル經驗アリ。骨折治療法ノ根本ヲナス整腹ト固定ヲ至極簡單ニ且ツ確實ニ行ヒ得ル點ニテ, 同法ハ推賞ニ價スルモノト思ヘル (日本外科實函, 第14卷, 第6號, 1251頁參照)。

#### 答

演 者

余等ノ治療法ノ主旨ハ後遺症トシテノ龜背ノ形成ヲ見ザルト, 又高度ノ麻痺ノ有スルモノニ對シテモ同様ニ應用ノ出來ルト云フ2點ニアル。本病治療ノ目的ハ脊柱ノ機能ノ恢復ニアツテ, コノ機能ノ恢復ハ脊柱ノ生理的彎曲ノ矯正恢復ニ他ナラズ。吾々ハ之ヲ一時的ニ行ハズ, 除々ニ何等ノ危惧ヲ抱カズ, 而モ可及的速カニ行ハントスルモノデアル。

#### 追加 4

笠井 重雄

「ベール」氏法變法ノ有用性ヲ重ネテ強調シ, 自家治驗例ニ於テ該確認ヲ述ベ特ニ骨梁骨折ニ對スル該法ノ妥當性ニ論及セリ。

#### 24. 習慣性肩胛關節下方脫臼ノ治驗

京府大外科 松永 策

習慣性肩胛關節下方脫臼ハ文獻上稀有ニ屬スルモノデアルガ私ノ經驗セシ症例ハコノ型ニ屬シソノ處置トシテ多クノ觀血的方法ガアルガ本症例ニテ45日間ノ「ギブス」固定縛帶ニテ完全治療ヲキタセシモノデアル。

#### 25. 外傷性恥骨縫合斷裂症例追加

阪大岩永外科 中村 敬一, 笠井 重雄, 多田 潤也

3歳ノ女兒ニ見タル外傷性恥骨縫合斷裂症例ヲ追加シ, 更ニ治療ニ及ビ, 而シテ自家考案ニカナル裝具使用成績ニ論及シ, スクテ比較的短期間ノ入院治療ニヨリ, ヨク治療ノ目的ヲ達シ得タル症例ヲ報告セリ。

#### 26. 脛上骨折ノ觀血的療法

大阪外科三羽病院 三羽 兼義

上膊骨, 及大腿骨下端ノ骨折ニシテ, 骨折端轉位著シク, 完全ナル整復困難ト思ハル、症例ニ對スル觀血的療法ニ就テ述べ, 此ノ方法ガ機能上ニモ, 外觀上ニモ極メテ満足ヘベキ成績ヲ得タル、コトヲ症例ヲ舉ゲテ報告セリ。

#### 27. 關節結核並ニ慢性關節「ロイマチス」患者ニ於ケル赤血球沈降速度ノ臨床價値ニツイテ

岐阜縣立病院外科 松岡道治

關節結核ハ臨床の所見ガ現ハレル迄ニ相當ノ時日ヲ要シ初期ニ於テハレ線ニヨリテモ所見ガ現レズ、就中關節結核ト慢性關節<sub>L</sub>ロイマチス<sup>T</sup>トノ鑑別上困難ヲ感ズルコト少ナカラズ。然シテ此兩者ノ鑑別診斷ノ必要ナル事ハ兩者ノ治療方針ガ相反スルノミナラズ、又豫後判定ニモ著シキ差アリ。赤血球沈降速度ハ現時盛ンニ行ハレテキルニ拘ラズ關節結核ト慢性關節<sub>L</sub>ロイマチス<sup>T</sup>患者ノ赤血球沈降速度ヲ臨床のニ比較測定セル報告ガ甚ダ少キタメ實地上此兩者ノ鑑別ニ指針ヲ與フルヤ否ヤヲ總數136例ニツキ調査シ其内癰孔、寒性膿瘍ナキ股、膝、足、手腕、肘關節ノ結核及慢性關節<sub>L</sub>ロイマチス<sup>T</sup>患者ニ於テ速進ヲ來ス如キ合併症ヲ認メ得ザリシ100例(男子67例、女子33例、年齡ハ6歳ヨリ84歳迄)ニツキ昭和9年春ヨリ昭和12年9月末迄ノ間ニ涉リ研索ヲ行ヒ次ノ結果ヲ得タリ。

1) 股、膝、足、肘、手腕關節結核患者ノ赤血球沈降速度ハ大多數ニ於テ速進シ少クトモ正常ヲ示スモノハ極稀ナリ。2) 反對ニ慢性關節<sub>L</sub>ロイマチス<sup>T</sup>患者ハ合併症無キ限り正常若クハ輕度速進ヲ示シ中等度以上ノ速進ヲ示セルモノニ就テ調査セルニ其總テニ於テ速進ヲ來ス如キ合併症ヲ認メタリ。3) 以上ニヨリ大關節結核ト慢性關節<sub>L</sub>ロイマチス<sup>T</sup>トノ鑑別上赤血球沈降速度ガ正常ヲ示ス場合ト中等度以上ノ速進ヲ示ス場合極メテ有力ナル補助診斷トナル。但兩者ノ赤血球沈降速度ニ於テ輕度速進ノ場合ガ相當ノ率ニ於テ認メラレルタメ輕度速進アリテモ關節結核ナリトハ斷定シ得ズ。

## 追 加 1

原 守 藏

私共ノ調べタ成績デハ赤血球沈降速度測定ノ關節結核ト慢性關節<sub>L</sub>ロイマチス<sup>T</sup>トノ鑑別診斷トシテノ價值ハ少イ様ニ思ハレマス。關節結核デハ確カニ大多數ハ速度亢進シテオルガ慢性關節<sub>L</sub>ロイマチス<sup>T</sup>ニ於テモ亢進シテオルモノガ随分多クテ高度ノ速度亢進ヲ示スモノモ可ナリ多數ニアル様デアル。

## 追 加 2

岩 永 教 授

<sub>L</sub>ロイマチス<sup>T</sup>ス、就中、慢性<sub>L</sub>ロイマチス<sup>T</sup>ヲ Eppinger ハ „Chronische Seröse Entzündung“ ト言ツテ居ルガ、コノ際赤血球沈降速度ハ促進セラレテ居ルト云フ。コノ赤血球沈降速度ノ促進ハ或ハ演者ノ述ブルガ様ナ合併症ニ因ルコトモアラウケレドモ、<sub>L</sub>ロイマチス<sup>T</sup>ソレ自身ニヨツテモコレガ起リ得ルコトヲ記憶セネバナラヌ。

## 應 答

松 岡 道 治

追加1ニ對シテハ慢性關節<sub>L</sub>ロイマチス<sup>T</sup>患者ニ於テ赤血球沈降速度ガ中等度以上速進セルモノ19例アリ。其内12例ニ就テ更ニ詳細検査シタルニ其總テニ於テ速進ヲ來ス如キ合併症アルヲ發見セリ(残り7例ハ胸部其他ニ就テ詳細検査スル機會ヲ逸セリ)。故ニ合併症ノ有無ヲ検査スル必要アリ。

追加2ニ對シテハ前述ノ如ク未検査ノモノガ7例アリ、斷定ハ無論出來マセン。只検査成績ヨリ見マシテ正常、輕度速進ノモノニ比シ中等度以上速進ノモノハ甚ダ少數デアリマス。

## 28. Kausalgie ニ於ケル交感神経切除治療例

京大外科 吉 野 位

日本外科實地第15巻、第1號、94頁掲載済。

## 29. 腰薦交感神経節状索切除術ニ對スル問題ニ就テ

京大外科 大 澤 達

演者ハ腰薦交感神経節状索切除術ノ切除部位ニ就テ Cannon ノ薦部切除ノ禁忌說ヲ臨床事實ニヨリ反駁シタリ(詳細ハ追テ本誌ニ發表ノ豫定)。

30. <sub>L</sub>ラクリモール<sup>T</sup>ノ持続性局所麻痺作用ヲ應用シテ治療セル痙攣性斜頸ノ第2例 (16ミリ映画供覽)

京大整形外科 山本四明男

第12回日本整形外科學會總會ニ於テ、伊藤教授創製ノ<sub>L</sub>ラクリモール<sup>T</sup>ノ持続性局所麻痺作用ヲ應用シテ治療セル痙攣性斜頸ノ1例ヲ報告セシガ、最近再ビ1治療例ヲ得タルヲ以テ第2例トシテ追加報告ス。

37歳ノ男子、昭和11年6月、連日多量ノ飲酒ヲナシタルニ咽頭痛ト共ニ、左側項部ニ緊張感アリ。間モ無ク頸ガ左側ニ傾キ同時ニ頭ガ無意識ニ右側ニ廻轉スルニ氣付ケリ。頭ヲ正面位ニスルニハ自身ノ手ノ補助ヲ



要シ自動的ニハ不可能トナル。爾來醫療（ $\text{L}$ コルセット<sup>7</sup>等）ニヨリ約3ヶ月後ニハ稍輕快スルモ全治セズ。痙攣性斜頸ノ診斷ノ下ニ入院後 $\text{L}$ ラクリモール<sup>7</sup>0.5~2.0ccヲ3日~1週間ノ間隔ヲ置キ兩側後頭下部深在性項筋内、並ニI~IV頸神經根部注射（paravertebrale Injektion）17回施行シ、其間電光浴、 $\text{L}$ マツサージ<sup>7</sup>等ニヨリ輕快、更ニ $\text{L}$ ギブス<sup>7</sup>固定、牽引ヲナシ入院後約4ヶ月ニテ全治退院ス。

從來痙攣性斜頸ノ治療ハ種々ナル手術法ガアルモ、何レモ手術操作ガ比較的困難、時ニ危險ヲ伴フコトアルニヨリ、寧ロ日數ヲ要スルモ副作用ナキ持續性局所麻痺藥即チ $\text{L}$ ラクリモール<sup>7</sup>ノ注射ガ最モ合理的の治療法ナリ。

### 31. 前膊骨折後來性手指機能障礙治驗例

阪大岩永外科 笠井重雄、一之瀬政秋

30歳ノ男子ニテ自動車運轉手ヲ業トセル者ニ來レル、前膊骨折ニ後來セル手指機能障礙ヲ主訴セルモノニテ、該機能障礙ノ主因ガ手指腱ノ脱位ト脱逸位癒着ニ存スルコトヲ知り、觀血のニ該機能恢復ノ目的ヲ達シ得タル症例ヲ報告シ、手指機能障礙原因トシテノ腱脱位ノ重要性ヲ強調セリ（附、映畫供覽）。

### 32. 小顎症ヲ伴ヘル顎關節強直ノ治療

京府大外科 藤井俊治

患者ハ13歳ノ少女デ3歳頃左側耳後下部ニ輕度ノ化膿性炎症ヲ起シ二次的ニ左側顎關節骨性強直ヲ惹起シ定型的ノ所謂鳥頰ヲ呈シキタルモノニ手術的授動術ヲ施行シ良好ナル結果ヲ得尙ソノ際特異ノ變化トシテ下顎枝前後經ノ2cmニモ達スル肥厚ヲ認メ肥厚ノ起ル機轉トシテ次ノ2因ヲ舉ゲタ。即チ1) 炎症性刺激ノ作用、2) 閉口筋族ノ常存性ノ筋攣縮ガ下顎骨ニ牽引作用ヲ及ボシ一方閉口筋族ハソノ作用ガ廢用ニ歸シソノ牽引作用ヲ表サズ。カクシテ起ル下顎骨ニ作用スル兩者筋力ノ平衡失調。以上2者ノ合同作用ニ依ルトシ同様ノ例ハ臍胸ノ際附近肋骨ガ著明ニ肥厚スルコトヲ附加シタ。

### 33. Spondylolisthesis ノ $\text{L}$ クロナキシー<sup>7</sup>ニ就テ

阪大小澤外科 清水源一郎、大原重之、土居文右衛門

2例ノ $\text{L}$ 線像ニヨリテ明ラカナル定形的Spondylolisthesisニ就キテ馬尾神經障礙ノ有無ヲ檢索セントシ之ニ知覺並ビニ運動筋 $\text{L}$ クロナキシー<sup>7</sup>ヲ應用セル結果、馬尾神經ニ於テ知覺及ビ筋 $\text{L}$ クロナキシー<sup>7</sup>共ニ著シキ變化アルヲ示セリ。從來本疾患ニ於テ自覺的馬尾神經障礙ノアルニカ、ワラズ、ソノ他覺的ニハ證明困難ナリシガ余等ノ兩 $\text{L}$ クロナキシー<sup>7</sup>ニテ明ラカニソノ神經障礙ノアルヲ知り得ルナリ。故ニSpondylolisthesisニ於テハ必ズ多少共馬尾神經障礙ヲ伴フ事明ラカナリ。

### 34. 外傷性横隔膜ヘルニア<sup>7</sup>ノ1治驗例

阪大小澤外科 岩崎吉次

外傷性横隔膜ヘルニア<sup>7</sup>ノ稀有ナル形ヲ手術ニヨリ治療シメタリ。受傷（鈍性外力）後5ヶ月、胃及大網膜ハ心嚢内ニ横行結腸ハ左肋腔内ニ脱出ス。併シテ心嚢内ニ脱出セルモノハ一部心臟尖端部ト癒着ス。

$\text{L}$ 線検査ニヨリ興味アル像ヲ呈ス。著シク右側ニ偏位セル心臟ノ左側ニ半圓形ノ透明ナル約林檎大ノ像アリ。コレ心嚢内ニ脱出セル胃ナリ。左側肺ハ脱出セル横行結腸及大網膜ニヨリ $\text{L}$ アテレクトターゼ<sup>7</sup>トナル。開胸後還納シ心嚢及横隔膜縫合ニヨリ閉鎖ス。手術式ハ先ヅ開胸術ニヨルヲ至當ト信ズ。必要アル場合ハ開腹術ヲ併用スベシ。横隔膜ヘルニア<sup>7</sup>ニ於テハ左側肋腔ガ最モ多ク稀ニ右側肋腔ニモ脱出スレドモ本例ノ如キ心嚢ヲ破リテ胃ガ脱出シ心臟ト癒着スルハ未ダ見ズ。

### 35. 胃腸運動ノ神經支配ニ關スル考察（第2報）

（抄録未着）

京府大外科 横田浩吉、他8氏

### 36. 實驗的海豚胃潰瘍形成ニ及ボス $\text{L}$ ヒスタミナーゼ<sup>7</sup>ノ影響（第1報）

（抄録未着）

阪大岩永外科 杉岡善一

### 37. 極小胃癌剔除後ノ再發例

京大外科 朝倉進

日本外科實函、第14卷、第6號、1249頁掲載済。

### 38. 胃（内）出血ニ因ル急性胃擴張症ニ就テ（附 總腸間膜症）

京大外科 白羽彌右衛門

本症例ノ内容ハ演者ノ都合ニヨリ生越十三ニヨリテ日本外科實函、第14卷、第5號、991頁ニ發表セラレタリ。

## 39. 總腸間膜症ノ2例

倉敷中央病院外科 山 田 評 吉

第1例ハ54歳ノ婦人ニシテ、子宮癌剔出手術後「イレウス」症状ヲ起シ、發病後36時間目ニ開腹シタルニ、盲腸ヲ中心トシテ上行結腸ノ一部及ビ迴腸末端ガ、時計ト同方向ニ540度以上捻轉シ、壊死状態ニアリ。コレヲ整復セルニ盲腸及ビ上行結腸ハ小腸ト共同遊離腸間膜ヲ有スルヲ認ム。本例ハ Mesenterium ileocaecale commune ニ屬シ、Herd tamponade ノタメ人工的ニ迴盲部捻轉ヲ惹起セシモノニシテ、同部ヲ切除セシモ翌日鬼籍ニ入レリ。

第2例ハ25歳ノ男子、數年來時々高度ノ便秘、嘔吐、輕度ノ「イレウス」症状ヲ訴へ、昨年來所々ニ入院治療ヲ受ケシモ輕快セズ、本年5月1日當院内科ヲ訪レ、腸閉塞並ニ Narkotica ノ中毒ナル診斷ニテ轉科セルモノナリ。「イレウス」ノ原因ハ經過並ニ全身所見ヨリ、結核性腹膜炎ニ依ルモノカト考ヘ開腹シタルニ、盲腸ハ上行結腸ト共ニ甚シキ移動性ヲ示シ、小腸ト共通ノ遊離腸間膜ヲ有スルヲ認メ、大腸ノ大部分ハ腹部左半ニアリ、上行結腸ハ短縮シ、横行結腸トノ移行不明ニシテ肝彎曲ハ缺如セリ。横行結腸ハ小腸蹄係ノ後方ヲ通過シテ脾彎曲ニ達シ、以下ノ走行ハ正常ナリ。腸間膜根部ハ狹少ニシテ高位ニアリ、空腸起始部ハ脊柱ノ右側ニアリ、十二指腸ハ走行ニ異常アリ移動性ヲモ證明セリ。結腸起始部ヲ自然位ニ固定、術後ハ腹部症状殆ンド消散セリ。ソノ後迴盲部ノ牽引痛ヲ訴ヘシタメ、9月27日再度上行結腸上部ヲモ充分固定セリ。

本例ハ定型的ノ Mesenterium ileocolicum Commune ニシテ、小腸ガ盲腸ト上行結腸ト共ニ捻轉シ「イレウス」症状ヲ惹起セシモノト考ヘラル。

## 追 加

山 崎 直 治

今山田君ノ報告シマシタ第1例ノ如キ場合ハ迴盲部ヲ切除スレバヨイノデアリマスガ、第2例ノ如キ高度ノ畸形ノアル場合、小腸、盲腸、横行結腸右半ノ捻轉ヲ手術的ニ如何ニシテ豫防スレバヨイカ、困難ナ問題デアリマス。吾々ハ先ヅ正常床ヘ Coecopexie ヲ行ツタノデアリマスガ、其ノ後腸閉塞症状ヲ起サナイコトカラ考ヘテ相當ノ效果ガアルコトガワカリマス。併シ約3ヶ月後ニハ右側腹部ニ牽引痛ヲ訴ヘルヤウニナツテキマス。

後デ考ヘタノデアリマスガ、斯ル大腸ノ大部分ガ左腹半ニアルヤウナ場合ニ、盲腸部ヲ態々右腸骨窩ニ固定シタコトハ妥當デナカツタノデハナイカト思ヒマス。寧ロモツト左ニヨツタ處、即チ脊柱ノ直右側デ後腹壁ニ固定スベキデアリマス。又小腸モ腸間膜根ハ細ク恰モ襷ノ口ヲ締メテツリ下ゲタヤウニナツテ居リ、容易ニ捻轉スルワケデアリマスカラ、小腸々間膜ヲモ多數ノ點デ後腹壁ニ固定スレバ、好結果ヲ得ラレルノデナイカト考ヘマス。勿論コノヤウナ固定ガ時間的ニ何時迄有效デアルカハ疑ハシイノデアリマスガ、生命保持ノ爲切除ハ不可能デアリマス。

## 40. 腸間膜畸形腫

阪大小澤外科 清 水 源 一 郎、吉 井 直 三 郎

患者ハ1年10ヶ月ノ男兒、細菌感染及ビ「イレウス」ヲ合併シテ、手術ニヨリ初メテ腸間膜畸形腫ナリト診斷セラレタルモノナリ。1週間前ヨリ腹部膨滿、糞便様物ノ嘔吐、便秘、下腹部壓痛ヲ訴へ、一見、興奮状態ニアリ、軀牙著明貧血性、羸瘦、高度ノ腹部膨滿アリ、腹壁緊張及蠕動不安不著明、臍右下ニ拇指頭大ノ軟骨様硬度ノ硬結ヲ觸レ、表面結節狀、睾丸ニ異常ナシ。迴盲腸部結核並ニ腸閉塞症ト診斷セラレ、全身麻酔ノ下ニ、右副直筋切開ニテ腹腔ニ達スルニ、小骨盤腔内ニ手掌大ノ腫瘍狀シ、コレヲ中心トシテ小腸捻轉ヲ起セリ。腫瘍ハ完全ニ腸間膜兩葉ニヨリ包裹セラル。之ヲ壊死狀トナレル迴腸約7糎ト共ニ剔出、迴腸斷端ノ側々吻合部ハ迴盲腸辨ヨリ約7糎ヲ隔ツ。患者ハ術後8時間ニシテ腦症狀ヲ現ハシ遂ニ鬼籍ニ入ル。腫瘍ハ190g、表面ハ弾力性硬、一部軟骨様硬、剖面ハ實質部ト囊胞部トヨリナリ、中ニ一部ハ膿汁ヲ一部ハ粘液ヲ充シ、レ線ハ骨様陰影ノ他種々硬度ノ陰影ヲ示ス。組織檢査ハ3胚葉腫ナルコトヲ示シ、構造雜多、分化未熟ナリ。膿汁ヨリハ葡萄狀球菌證明セラレタリ(缺席)。

## 41. 肝臟囊腫ヲ疑ハシメタ大網結核性囊腫ノ1例

縣立神戸病院外科 松 岡 繁

3年前肋膜炎ニ罹患セル41歳ノ家婦、4ヶ月前ヨリ漸次増大セル臍部林檎大球狀腫瘤ヲ訴ヘテ來院、開腹セルニ同腫瘤ハ彈性硬ニシテ波動ヲ呈シ、肝右葉前縁ニ密着シテ肝臟囊腫ヲ疑ハシム。同腫瘤下半周ハ大網ニ蔽ハレ、之ト密着シ、尙周圍ニ結核性纖維性腹膜炎ノ病變並ニ2、3雀卵大淋巴腺腫ヲ認ム。組織學的ニ囊腫癒着部肝實質及ヒ淋巴腺ハ結核性病變ヲ示ス。檢討ノ結果、本囊腫ハ大網結核性淋巴腺腫ノ一部ガ異常ニ増大、中央壊死組織ノ一部ガ液化シテ囊腫狀トナリ、肝臟ト癒着シテ肝囊腫ノ如キ外觀ヲ呈セルモノト解セリ。カクノ如キ腫瘤ノ發現ハ一般腹部腫瘍ノ鑑別診斷上注目ニ價スベシ。

#### 42. 巨大ナル小網内副睪腺

長濱病院外科 長岡 浩

日本外科寶函第15卷、第1號、99頁掲載濟。

#### 43. 腸管運動ト「アニリン」色素

京都市 角田 英

以下ニ述ブル所ハ余ノ「アニリン」色素ノ毒物學的研究ノ副産物デアル。但シ該實驗ハ凡テ *in vivo* ニ行ハレタモノデアル。其ノ實驗成績トシテ余ガ囊ニ「アニリン」色素中ニ腸管運動促進作用ヲ有スルモノ、有ル事ハ已ニ發表セノ所デアル。因ミニ余ハ所謂蠕動促進素或ハ亢進素ヲ次ノ2種ニ分類スル。

1. 下 劑：蠕動促進作用ノ他ニ腸管内壓竝ニ腸管内ノ腺分泌ヲ亢進スル作用ヲ有スルモノ
  2. 下劑ニ非ルモノ：主トシテ蠕動ト腸壁ノ緊張トヲ亢進スルモノ
- 例之「プロスチグミン」, 「ピツイトリン」, 其ノ他ノ「ホルモン」等

「アニリン」色素中ニハ已ニ緩下劑トシテ人口ニ膈炙セルモノガアル。フェノールフタレイン類之デアル。余ガ曾テ行ツタ腸管運動ト「アニリン」色素ニ關スル實驗ハ該色素ヲ動物ノ靜脈内ニ注射シタ場合及ビ之ヲ直接腸管内ヘ注入シタ場合ニ於ケル同運動ニ及ボス影響ノ觀察デアル(相馬伴臣氏等ト共同實驗)。前者ノ場合ニ於テハ其ノ影響ハ餘リ顯著デハナイガ。トルイデン青其他2,3ノモノハ可成著明ナル腸壁ノ緊張ノ増進ト蠕動ノ亢進ヲ招來スルコトヲ認メ得タ(第38回本會ニ於テ發表)。後者ノ場合ニ於テハ更ニ前者ノ場合ニ於ケルヨリモ著明デアツテ、就中「アクリジン」色素「トリフェニルメタン」色素等ハルゴール氏液腹腔内注入後數時間ニシテ殆ンド全ク人工的の麻痺ニ陥レル腸管壁ノ緊張ト蠕動トヲ充分恢復セシメ得ル作用有ルヲ發見シタ。是ヲ以テ余ハ「アクリジン」色素等ガ腸管運動ニ對シテ鎮痙作用ヲ有スルト云フガ如キ從來ノ學說ハ根據無キ臆測ニ過キナト見做シ、「アニリン」色素中ニ蠕動促進素ト見做ス可キモノ多數有ル事ヲ主張スル。併シ其レ等ノ作用ノ原因、學理ニ關シテハ甚ダ複雜デ推察シ難キガ故ニ割愛スル。

余ガ京都府立醫科大學雜誌第17卷第2號ニ於テ已ニ論ジタ様ニ腸管麻痺ニ對スル處置ハ一般ニ對症候の處置ト見做ス可キガ故ニ該處置ハ必シモ常ニ原病ノ豫後ヲ良好ニ導クモノトハ(nicht antagonistischニ作用スルモノトハ)考ヘラレナイ。之バカリニ焦慮スルト時トシテハ却テ惡結果ヲ來スカモ知レヌ事ニ注意ス可キデアルト思フガ、3斯カル症候ノ永續ハ其ノ症候ヲ發現セシメツ、アル原病ノ治癒ヲ妨ゲル事ガ明白デアラナラバ斯カル症候ノ除去ニ力メル可キモノト信ズル。斯カル意味ニ於テ普通一般ニ腸管麻痺ノ對策トシテ講ゼラレル所ノ水分ノ補給、輸血、瀉腸、溫熱刺激、強心劑竝ニ蠕動促進劑ノ投與、最後的手段トシテ觀血の腸瘻造設術等ガ舉ゲラル可キデアルト信ズルガ如上ノ諸方法ニ加フルニ上述ノ余等ノ實驗成績ハ腸管麻痺ニ際スル適當量ノ數種「アニリン」色素ノ蠕動促進素トシテノ臨牀の應用ヘノ導火線トナリ得ルト思フノデ茲ニ敢テ報告スル次第デアル。

#### 44. 非特殊性炎瘻性上行結腸腫瘤ニヨル「イレウス」 京府大外科 河村 謙二, 畑 薫

腸蜂窩織炎ハ稀有ナ疾患デアル。昭和9年、余ハ小腸殊ニ迴腸蜂窩織炎ノ2例ヲ報告シタ(臨床日本醫學原著版、第3卷、3號)。茲ニ報告シタ例ハ最モ稀有ナ結腸ノ蜂窩織炎ト考ヘラレルモノデアツテ病變腸管ノ切除不能ノ狀態デ該腸管ノ膿置術ニヨツテ治癒シタ1例デアル。

患者ハ21歳ノ男子、急性汎發性腹膜炎ノ症候ヲ示シ、又「イレウス」ノ狀態ヲ呈シテキタ。即チ上行結腸肝彎曲部デ腸管ハ肥厚、腫脹シ硬固トナリ膿性苔ニ被ハレ大網膜ニ包マレタ1ツノ腫瘤ヲ形成シテキタ。

本症ハ結腸ニ來ルコト極メテ稀ナ疾患デアルガ、本例ニ於テハ結腸ニ見ラレル病變、例ヘバ「アメーバ」赤痢後ノ慢性單純性腸壁肥厚、微毒、結核、其他非特殊性炎衝トシテハ蟲様突起炎後遺症、硬結性上行結腸炎、潰瘍性結腸炎、非特殊性限局性腸炎等ト瞭ラカニ鑑別セラレル。本症ノ療法トシテ腸管切除ヲ必須トスル諸家ノ報告及ビ余ノ管テナシタ同様主張ハ今猶ホ變ズルモノデハナイガ、茲ニ稀ニ然ラズシテ治癒スル幸運ナル例ノアルコトヲ示シ得タモノト思フ。

## 追 加

大阪外科三羽病院 三 羽 兼 義

30歳ノ男子、漸進的慢性「イレウス」症状ニヨリテ37度5分ニ達スル發熱アリ。胃部膨滿強ク、右側腹部ニ壓痛性、境界不明ノ大人手拳大ノ腫瘍アリ。開腹スルニ上行結腸ノ肝彎曲ニ近キ部ニ生ジタル炎衝性腫瘤ニシテ、蜂窠織炎性浮腫ハ上行結腸ノ盲腸ニ移行スル部、及ビ脾彎曲ニ近キ横行結腸部マデ廣汎性ニ波及シ、腫瘍部ニハ更ニ3ツノ小腸蹄系ガ固ク癒着シ。浮腫強ク、出血性ナルタメト十分剝離シガタシ。腹腔内ニハ惡臭ナキ、潤濁セル腹水ヲ相當量容レ、腫瘍部ニハ膿膜ヲ附着セリ。腫瘍ノ全剔出到底不可能ナルヲ以テ、廻腸下部ヲ殆ド脾ニ近キ横行結腸ニ吻合シテ術ヲ終レリ。本症ハ手術前ニハ上行結腸ニ發シタル惡性腫瘍ガ炎衝ヲ起シタルモノカトモ考ヘラレタル程ナリシガ、手術所見、並ニ術後經過良好ト共ニ約1ヶ月ノ後、殆ド該腫瘍ノ抵抗消失シタルコトヨリ考フルモ、上行結腸ノ炎衝性腫瘍ト考フベキモノナリ。

## 答及ビ追加

河 村 謙 二、畑 薫

御追加ノ症例モ或ハ本症ニ近イモノト考ヘラレマス。臨床上所見、手術時所見等カヲ考ヘマスト前ニ私ノ報告シタ2例ノ内ノ1例ノ再開腹時ノ所見トヨク一致シ、從ツテ今私ノ報告シマシタ例ト共ニ本症ノ可ナリ進行シタ時期ノモノデナイカト考ヘラレルノデアリマス。尙此ノ例ガ腹腔ニ潤濁シタ液ヲ證シテキラレマスガ之ハ本症ノ進行シタ場合等デハ屢々肉眼的穿孔ナクシテ膿ヲ腹腔ニ證明スルコトアルモノデスル例モ從來報告セラレテキル處デアリマス。私ノ例デハ全く清澄デアリマシタガ之亦臨床上全く急性腹膜炎ノ症狀ヲ呈シタコトカラ考ヘマスト、或ハ培養スレバ Keim ヲ證明シタカモシレヌ。

尙診斷ニ就イテ一寸申添エマスガ元來 Darmphlegmone ト極メテ類似シタモノデ unspezifische regionale Ileitis, 又 Colitis ulcerosa 等ガアリ近來可ナリ報告サレ論議サレテキマスガ之等ハ元來ハ病變ノ主ナル所ガ粘膜ニアリ、又臨床上ニモ稍々異ル點ノ見出サレルモノデアルガ、稀ニ Phlegmone トマギラハシイ。或ハ腹壁ノ外層ニ向ツテ二次的ニ進行シタト考ヘラレル様ナ例ガ報告サレテキマス。最近デハ Zaijer, Jüngling, Gisbertz 等ノ報告ガソレデアリマス。從ツテ之等ト Darmphlegmone トハ時ニソノ嚴密ナ區別ノ出來ナイ様ナ場合ノアルト云フコトガ考ヘラレマス。

## 45. 横行結腸「ポリープ」1例

京大外科 山 中 四 郎

日本外科實函第15號、第1號、102頁掲載濟。

## 追 加 横行結腸「ポリボー」ジス

京都日赤 美 馬 陽

只今演者ノ例ハ幼時ニ來レル先天性「ポリープ」ナルガ余ノ例ハ40歳ノ女子ニ來タルモノナリ。10年前ニ赤痢ヲ經過セリトノ既往病歴アリ、約2年前ヨリ盲腸部、上行結腸肝彎曲部ニ互リ痙攣性痙痛來ル。該痙痛ハ年ト共ニ増強シ便秘ニ傾ケリ。レ線ニヨルニ明カナル狹窄ヲ認ム。腰痠ニヨリ副正中切開ヲ行フニ肝彎曲部ヨリ約10種ノ部ニ大網膜ノ癒着ヲミトム。ソノ部ノ横行結腸ハ甚シク狹窄ヲ來シ上行結腸ハ甚シク増大ス。ソノ狹窄部ヲ中心ニシテ上下ニ5種ノ部ニテ切斷シ端々吻合ヲセリ。然ルニ狹窄部ハ結腸全周ニ互リ中央ハタダ鉛筆ノ芯位トナリ帶狀瘢痕ヨリ約10數本ノ「ポリープ」ガ恰モ千成瓢箪ノ如ク垂レ下リ。ソノ長キハ16種ニ達ス。コノ「ポリープ」ハ恐ラク赤痢後ニ生ジタル瘢痕部ガ狹窄ヲ來シソコニ生ジタルモノナラン。

## 46. 高年者ノ蟲様突起炎

阪大岩永外科 中 村 一 郎、三 井 善 二

時間ノ都合上省略、抄録未着。

## 47. 蛔蟲2條ノ蟲様突起内迷入1例

大阪日赤 吉 田 太 郎

22歳ノ男子。1週間前急ニ右下腹ニ激痛アリ、翌日ニハ消失セリ。1週間目ニ再び痛性疼痛ヲ來シ、直チ

ニ手術施行。

現症；マツクバーネー氏點ヨリ内下方ニ向ヒ小指頭大ノ索狀硬結ヲ觸レ壓痛強シ。白血球1萬400。

手術所見；蟲様突起全腔内ニ稍硬キ棒狀抵抗アリテ盲腸部ニ及ベリ。切除セシ蟲様突起内ニ、雌雄2條ノ蛔蟲ガ何レモソノ頭部ヲ以テ進入シ、6種ノ長サデ切断サレ、尙僅ニ運動セリ。術後4日目ニ雄蟲尾部、8日目ニ雌蟲尾部ヲ糞便中ニ見出セリ。組織學的ニ輕度ノ炎症狀ヲ認ム。

本例ハ突然ニ激痛ヲ以テ發シ、且ツ發作的ニ反覆シ發作時以外ニハ殆ンド障碍ナカリシ事、疼痛ニ比シテ他覺の所見比較的輕度ナリシ事ハ普通ノ蟲様突起炎トヤ、異ル點ナリ。

#### 48. 直腸切断術 Goetze 氏法ニ就テ

京大外科 大澤 達

追テ日本外科實函誌上ニ發表ノ豫定。

#### 49. 外傷性離斷腎臓

阪大小澤外科 村田 由一

余ハ偶然ニ「イレウス」ノ手術中腹腔中ヨリ腎臓形ノ小體ヲ摘出シタリ。コノ患者ハ19年前ニ騎兵隊ニ服務中馬ニ蹴ラレテ、脾臓出血ノタメ脾臓摘出ノ手術ヲ受ケ、ソノ後ニ何ヲ變化ナカリシニ偶然ニ手術ニヨリソノ當時ノ外傷ニヨツテ左側腎臓ガソノ外力ニ依ツテ腹腔内ニ入り、血管ト離斷シテ存在セルコトヲ知りタリ、依ツテ外傷性腎臓離斷ノ例トシテ興味アルヲ以テ報告ス。

#### 50. 腎ノ囊腫様腺腫摘出例

京府大外科 松永 榮、鎌田 濟

最近腎臓摘出術進歩シテヨリ腎ノ腫瘍ガ比較的多ク報告サレテキルガ腎皮質ニ發生セル腺腫及ビ胎生の混合腫瘍等ガ報告サレテキルガ私ノ經過セシハ腎ノ髓質ヨリ發生セシ乳嘴狀囊腫狀腺腫大サハ長サ12種、幅10種、厚サ6.5種、重量370瓦ニシテ7歳ノ小兒腎腫瘍トシテモ大ナルモノデアル。腎摘出ニヨル死亡率現今猶高率ナルモ私ノ症例ニテハ全治セシモノデアル。

追 加

神戸 武藤 完雄

最近卵巣腫瘍ノ症狀ヲ早シ婦人科ニ入院セシ患者ニテ手術ニヨリ左腎腫瘍ナルコト判明、該腫瘍ヲ剔出セル1例ヲ經驗セリ。顯微鏡的ニハ腎實質ヨリ發生セル腺様癌腫ナリキ。

#### 51. 囊腫腎摘出治験例

京都日赤 美馬 陽

囊腫腎タルヤソノ臨床症狀ニ特有ノモノナキタメ早期診斷ハ頗ル困難ナリ。更ニソノ特異性トシテ兩側性ナルガタメニ摘出術モ甚ダシク慎重ヲ要スル所ニシテ、ソレガタメ今日迄ノ報告例ハ主ニ内科の方面ハ病理學的の方面ニ依ルモノナリ。ソノ診斷ノ困難ナルガタメニ他ノ腎腫瘍ト誤リテ手術ヲ施行シテ始メテ之ニ氣附ク場合モ尠シトセズ。余ノ例モ亦之ニ同ジキモノナリ。即チ既往病歴、現病歴ヨリ考フル時或ハ腎盂炎或ハ腎石ノ症狀ニ近ク尿所見ニ特有ノモノナク、血液所見モ亦然リ。更ニ膀胱鏡検査ニヨレバ輸尿管口ニ輕度ノ變化アルモ分泌作用ヲ認メズ。着色膀胱鏡検査ニヨルニ更ニ明ニ患側腎機能ノ消失ヲ認メタリレ線検査ニ見ルニ單純撮影法ニヨレバ患側腎ノ中ニ4個ノ陰影ヲ認メ下行性腎盂撮影法ニヨルト患側ノ腎盂、腎盞ハ顯現セズシテ健側ハ正常ニ近ク上行性腎盂輸尿管撮影法ニヨルニ患側ハ同ジク出現セズ。即チ囊腫腎トシテノ特有ナル腎盂、腎盞ノ擴張或ハ蛇行ヲ全然證明セザリシナリ。然ルニ手術ニヨリテ始メテ囊腫腎タルヲ認メ篤キテ他側ノ腎ノ狀況ヲ腹腔ヨリ檢シタルニ幸ニ囊腫様變化ヲミトメザリシヲ以ツテ摘出シ得タルナリ。實ニ本患者ハ1側ニ來タル囊腫腎ニシテ摘出ニヨリ之ヲ全治セシメ得タル1例ナリ。

追 加 1

大野 良藏

囊腫腎ノ摘出ニハ本病ガ兩側ニ來ルモノデアル。又私モ大人頭以上ノ太サノ腎摘ヲ行ツテカラ34ヶ月後ニ他側ノ腎囊腫ヲ來シタ經驗ガアル。此際ハ他側ノ健康ト云フ検査ノ外ニ此考ヲモ持ツベキデアリ、止ムヲ得ザル場合ノミ手術スベキと思フ。

追 加 2

神戸 武藤 完雄

吾々モ最近囊腫腎ヲ剔出セリ。本例ハ左腎結石ノ診斷ニテ手術セリ。術前腎機能検査ニヨリ右腎ノ機能ハ障碍ナキヲ確メタリ。手術ニヨリ囊腫腎ニ發生セル結石ナルヲ知レリ。囊腫腎ハ兩側性疾患トセラルモ、

1側ガ殊ニ高度ニテ且合併症ヲ起シ、他側機能良好ナルヲ知ル場合ハ剔出シテモ可ナラズヤト思惟シ居レリ、但シ術後經過ハ長期觀察スル必要アリ。

## 52. 溺水ニヨル睾丸轉位ノ1例

大阪日赤 碓 文 雄, 林 瑞 寶

最近予等ハ幼時ニ於ケル溺水ニヨル兩側睾丸腹腔内脱臼ノ1例ニ遭遇セリ。患者ハ23歳ノ職工ニシテ9歳ノ冬、約4米ノ水深ノ川ニ陥チ込ミ約100米流サレ其ノ途中橋桁ニ突キアタリ外陰部ニ創傷ヲ來セリ。意識恢復後一時臍部ニ強痛ヲ來セシモ以來殆ド苦痛無ク放置セシニ15歳ノ頃ヨリ時々兩側下腹部ニ牽引痛ヲ來シ結婚後性交後ニ特ニ強キ牽引痛ヲ來ス様ニナリ外來ヲ訪レ來レリ、子供ハナシ。

現在陰莖根部前面ニ挫創治癒後ト思ハルル瘢痕アリ。陰囊ハ空虚ニシテ舉上シ兩側共内鼠蹊輪部ノ上方ニ睾丸感様壓點ヲ認ムル他睾丸様腫瘤ハ觸レズ、他ニ外陰部ニ著變ナシ。手術所見ニ於テ右側ハ鼠蹊管内ニ精系存シ之レガ内鼠蹊輪ヨリ外鼠蹊輪近クニ下リ屈曲シテ再ビ内鼠蹊輪ニ及ビ内鼠蹊輪直上ノ腹壁内面ニ之レニ接シテ萎縮セル示指頭大ノ睾丸アリ。尙輸精管ハ副睾丸ニ近ク走行一部不明ナリキ。即チ曾ツテ下降セル睾丸ガ後天的ニ腹腔内ニ脱臼セル狀態ヲ示セリ。除睾丸ヲ行ヘリ。左側ハ鼠蹊管ヨリノ觸診ニヨリテ睾丸並ニ精系ヲ認メ得ズ、後日開腹術ヲ行フ事トナシ手術ヲ終レリ。

以上ノ病歴並ニ手術所見ヨリ本例ノ睾丸脱臼機轉ヲ次ノ如ク解釋セントヘ。即チ冬期川ニ陥チ込ミ其ノ際ノ「ショック」並ニ急激ナル溫度ノ變化ニヨリ強暴ナル反射的提舉筋攣縮ヲ來セシ爲、睾丸ハ上方ニ轉位シタル際更ニ外陰部特ニ陰莖根部ニ鈍性外傷加ハリ爲ニ睾丸ハ更ニ上方ニ轉位ヲ來シ終ニ腹腔内脱臼ヲ來セシモノナリ。

## 追 加

大 野 良 藏

右側ニ來タ青年ノ睾丸轉移3例ヲ追加ス。青年ニシテ「ヘルニア」ノ病歴ナキモノニシテ急ニ腹痛ヲ訴ヘ、鼠蹊部腫瘍ヲ造ツタ場合此事モ考ヘテ置ク必要ガアル。

## 53. 精系ノ淋巴管結核

阪大岩永外科 小 林 義 郎

泌尿生殖器發生機轉ニ就テハ種々ナル說アリテ、各實驗的並臨床的根據ニヨリ主唱セラレル所ナリ。余ハ最近結核性副睾丸炎ノ診斷ノ下ニ手術セル患者ニ於テ、副睾丸、睾丸ニ何等病的变化ヲ認メズ、精系ノミ結核性變化ヲ呈スル1例ヲ經驗セリ。本症例ニ於テハ臨床的所見、顯微鏡的所見ヨリミレバ肺結核ヲ原發竈トシ之ヨリ淋巴管系ニヨリテ傳播セルモノナリト思考スルヲ妥當トス(時間ノ都合上省略)。

## 54. 幼兒攝護腺肉腫ノ1例

縣立神戸病院外科 西 井 健 治 郎

3年1ヶ月男兒。突然排尿障礙全身浮腫ヲ來タシ尿管後7日來院、腹部膨滿、高度ノ腹水、下腹部恥骨上ニ成人手拳大略球狀ノ腫瘤アリ、上界ハ臍高ニ達ス。直腸内指診上攝護腺周圍ニ同硬度ノ腫瘍アリ、上限ニハ診指達セズ。此ノ際膀胱ヲ壓迫シテ少量ノ尿ヲ得タリ。採取尿ハ透明、酸性、蛋白反應陰性、血液像ニハ幼若白ザ血球ノ増加ヲ見ル。レ線寫眞上、兩側大腿骨並ニ上膊骨々端ニ限局性破壊竈アリ、外部ヨリハ腫瘤ヲ觸診シ得ルモ其ノ後ノ検査ニヨリ破壊竈ノ増大ヲ注意ス。腫瘍ヨリ試験的ニ小片ヲ切除シテ檢鏡スルニ肉腫ナルヲ知レリ。尙手術ノ際腫瘍ハ腹膜外ニ發生セルヲ確認セリ。以上ヨリ本例ハ攝護腺肉腫ニシテ輸尿管ヲ壓迫、無尿、全身浮腫ヲ來セルモノト思惟セラル。後巨大ナル左側水腫腎ノ發現ヲ見タリ。